

MAENAN SAH Journal Vol.2

June 8th, 2023

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

令和5年度より、群馬県教育委員会から『SAH (Student Agency High School)』の指定を受け、『自ら考え、判断し、行動できる生徒』の育成を目指します。『予測困難な時代』のなかで『生きる力』を育むため、『認知能力』に加え、『非認知能力』の育成に取り組みます。
*Agency・・・自分の人生および周りの世界に対して、よい方向に影響を与える能力や意思を持つこと

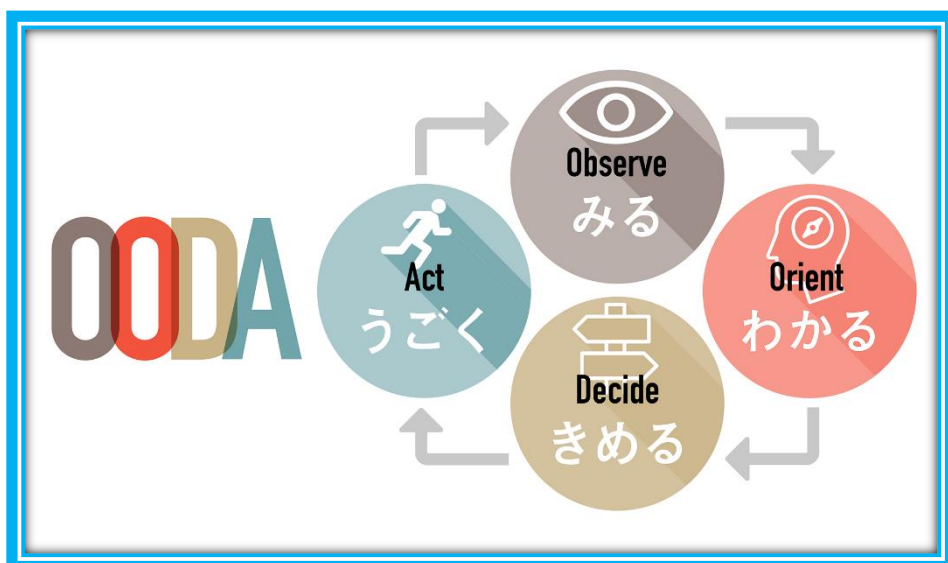
『日々の生活のなかのさまざまな課題』に対し、

『自分で考え、判断し、行動』し、

『課題解決』を図ってみませんか？

おすすめメソッドとして

『OODA (ウーダ) ループ』をご紹介します！



『PDCA』は有名ですが、『OODA ループ』というコトバを聞いたことがあるでしょうか？

部活動や大学入試のような『限られた期間』で成果を出すには『OODA (ウーダ) ループ』が最も効果があると思いますので紹介します！

『OODA ループ』とは、『①Observe (観る) → ②Orient (わかる) → ③Decide (決める) → ④Act (動く)』というプロセスで構成されます。

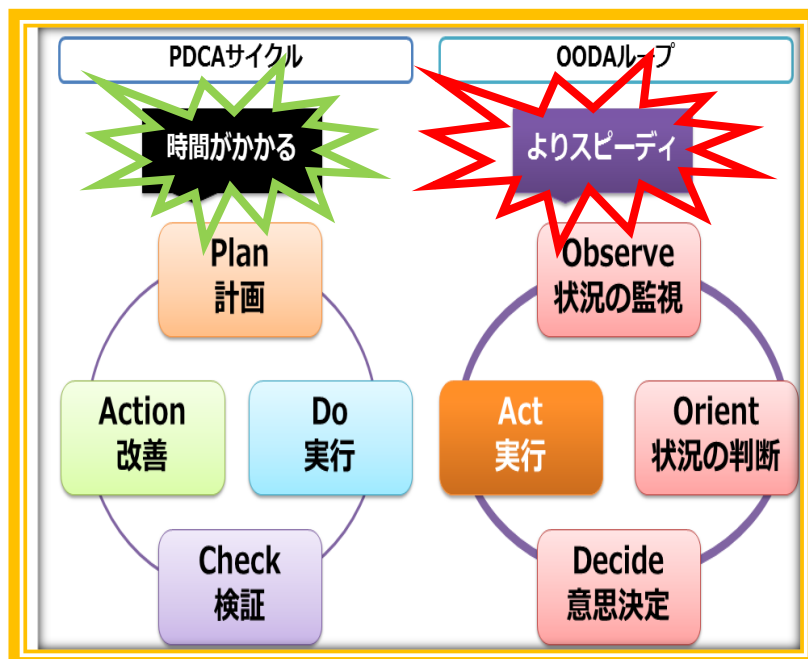
①現状を観察し、②何をすべきか理解し、③どう行動するかを決め、④実行する、というプロセスとなります。

いきなり第一手で『すぐにできそうな最優先事項』に着手するので『即効性』が高いのです。第一手がうまくいったのであれば、再び観察し、何が『次の優先事項』なのかを見極め、繰り返せばよいのです。すぐに取りかかることができ、簡単なのです。

『PDCA』と比較すると、まずは『Plan』の時点で差が出ます。みなさんは自分で決めた『Plan』が計画通りに進むことが、どの程度ありますか？また、『Plan』の第一項目は、『目次の最初』や『基本事項』にしがちであり、それが『OODA』での『最優先事項』であるはずがなく、その部分に到達するまでにどのくらいの日数を要するのでしょうか？多くの場合には、『そこに到達する前に『計画が破綻』することが多いのです。

もちろん、『英単語帳』のように『範囲をこなす必要』があれば『PDCA』を採用する方がよいでしょう。しかし、すぐに取りかかるべき『最優先事項が明確』であれば、『OODA』を採用した方がよいのです。『目的別に対処法を『使い分ける』』ことも必要なのです。

また、部活動でも学習でも観察すべきは『本番』の状況です。部活動なら『試合・大会・発表会』など、学習面なら『考査・模試・通知表』などです。そしてその『本番の場面』の『得意・得点・利点』などと『不得意・失点・欠点』などを比較するのです。



どんな『不得意・失点・欠点』がもっとも深刻なのか？を探り、そのうちのどの分野を『最優先事項』にするかを決め、対策するのです！『もっとも痛い』部分の対策をするので、『得意』までもっていく必要がなく、『失点』を減らすのみでも効果的があるはず。



陸上なら「スタートの遅れをなくしたい」とか、テニスなら「サーブのダブルフォルトのみ減らしたい」とか、英語なら「仮定法の基礎的な問題のみ解答できるようにしたい」など、その時点で『すぐにできそうな最優先事項』を強化すればすぐに『成果』が出るはずです。

『完璧な解決』はなかなかできません。まずは『ある程度の改善』が得られたらいいのです。そして『次の優先事項は何か』を『observe』し、『OODA』を繰り返せばよいのです。

特に『OODA』が優れているのは『常にその時のベスト』でいられる点です。なにごとにも『完璧』などあり得えません。『完璧な投球』『完璧な走法』『完璧な演奏』など、実は本当の意味では『なかなか到達できない』ものがたくさん存在します。

スマホのOS (オペレーティングシステム) がわかりやすい例です。Apple や Google がどんなに優れた企業でも、『完璧なOS』など製作不能なのです。だから、常に『その時点のベストな製品』を発売し、そのあとになって度々『アップデート』を繰り返し、修正し続けているではありませんか？それ故、いつでも『その時点ではベストな製品』なのです。そしてすぐに『その時点でもっとも修正した方がよい点のみを随時アップデート』しているわけです。

『OODA』は『最優先事項』に着手できます。すぐに改善が図れます。一方で『PDCA』は『隅々まで計画的』に進めることができます。この『両者』を巧みに使い分けることで、ものすごく『短時間』で改善を図ることができます。

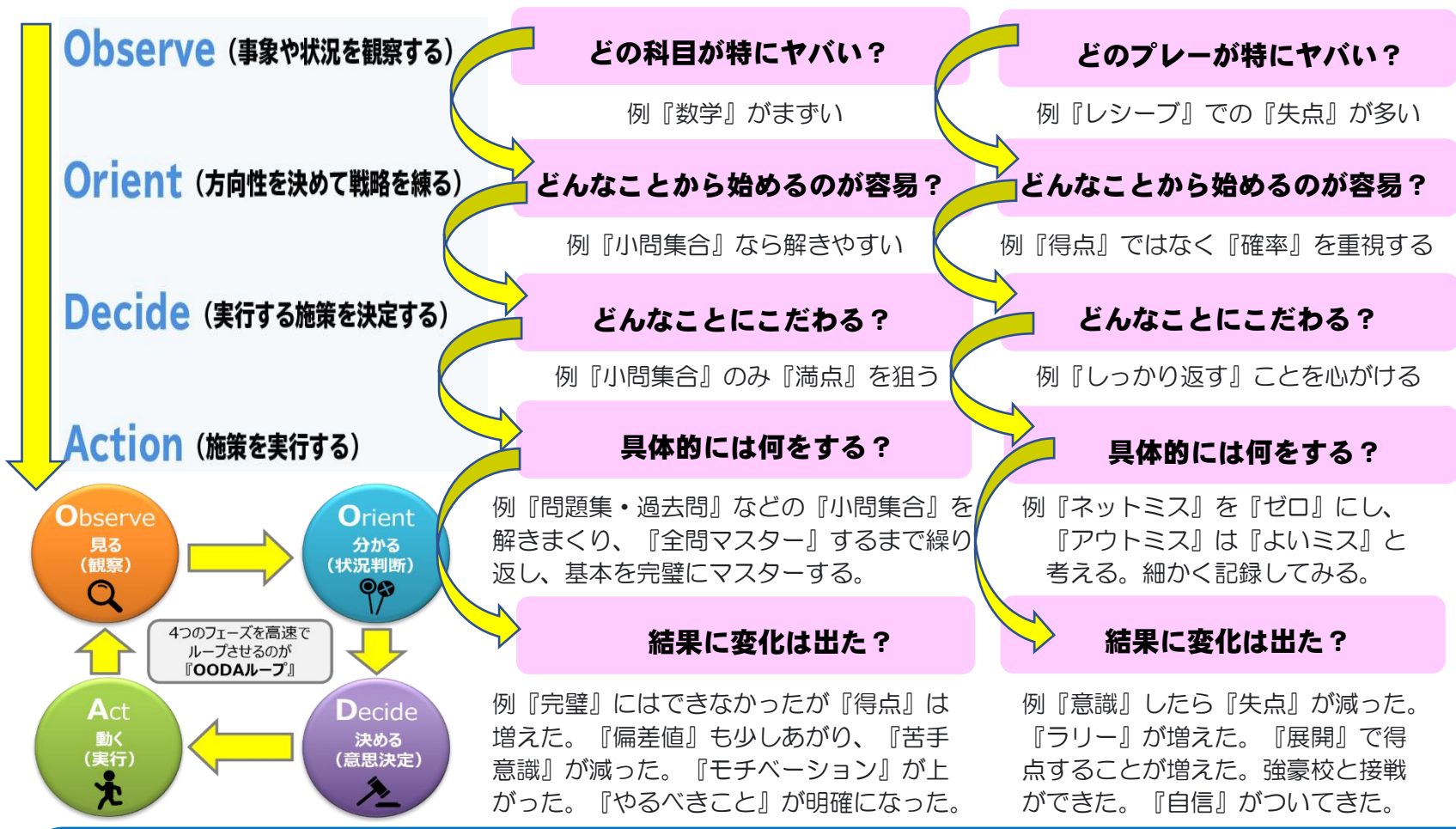
また、『OODA』では、常に『本番・最終局面』などを観察（分析）するので『本番で起こる課題』を常に自覚できます。本番での『Output』を意識しながらの『Input』や『修正・改善』ができるわけです。しかし、この『本番練習』に辿り着かない人が意外に多いのです。ですから『本番に吞まれる』こともあるし、『本番での想定外なことに対応できない』こともあるわけです。

『OODA』とは、ひたすら『最もできていない』を『多少できる状態・失点にはならない状況』にすることだと私は解釈しています。『まず何から着手する？』『それができたら次に何を？』などを繰り返すだけでよいのです。『もっとも容易にできそうなこと』からはじめましょう！

私も『自分の受験勉強』から始まり、『教科指導』『クラス経営』『進路指導』『部活動の強化指導』『自分の競技力向上』『現在の教頭業務』も『OODA』で行っています。『成果』をすぐに感じる事ができ、『やる気』も生まれます！もちろん『PDCA』を活用する場面もあります。前南のみなさんも試しにやってみませんか？
文責：星野 亨（教頭）

【成績面の分析例】

【部活動面の分析例】



★校長より★
 学びを例にすると、いきなり学問的な真理に到達することを目標にしても、なかなか上手くいかないでしょう。身近でわかり易いことから学び始めて、次第に上達して、高度で深い真理に到達する。本校の校訓である「下学上達」に通じることです。無理をすることなく、小さな一歩からで良い、自分で考え実行してみましょ。そして、できたら自分を褒めることも大切です。
 校長 関根 正弘